

2026年6月2日



# 『朝礼時講話～連絡事項』

## (1) 講話概略【介護の『基本のき』から今日をリスタート】

各部署の目標が出揃いまして、法人理念である「お年寄りのために」を基軸とした内容が盛り込まれております。其々が等身大の言葉で目標立案できている事を嬉しく思います。自分たちの言葉を念頭に置きながら過ごしていきましょう。また、職種の違う他の部署の目標も学ぶものも多くあるはずですので、ぜひ、皆さんもお目通し下さい。

今朝は、「お年寄りのために」…その第一歩、介護の『基本のき』とも言える、対人コミュニケーションについてお話したいと思っております。これは、職員皆さんが光寿苑に入職した際に行っている研修の中身でもありますが、私も基本に立ち還り、お話したいと思っております。

この絵をご覧ください。これは大脳ですが、この部分が前頭連合野と呼ばれていまして、代表的な機能としましては、意志の決定、計画の立案、問題解決、社会的行動など、この部分で社会生活の7割をつかさどっているとも言われています。この部分が機能障害を起こす代表的な病気の1つに認知症があります。あるいは事故により脳挫傷などで機能を失うこともありますね。これにより、介護の手が必要となってくる事はお分りの通りです。



今日、お話したいのは、この大脳に覆われるようにして中央部分に位置している「扁桃体(へんとうたい)」についてなのですが、この部分の機能としまして、「好き・嫌い」「快・不快」を本能的に判断するというものがあります。

目力、醸し出す雰囲気、言葉掛け等、この扁桃体で感じ取ってしまう訳ですが、例えば、挨拶しても素っ気ない態度をとる人がいたとします。正常に大脳が機能していますと、「あれ？私が何か気に障る事言ったのかな？」であるとか、「体調が悪い？」「家で何かあった？」等々、あれこれ考えます。その後、「そっとしておこう」とか「理由をちゃんと聞いてみようかな」等々、対応についても考える事ができます。

しかし、認知症等により機能がしっかりと働いていない状況では、そのまま扁桃体で感じ取った感覚だけが残るとされているため、嫌な情報(態度や言葉)はそのまま不快なものとして認識されてしまう事でしょう。言葉は思い出せなくても、嫌な思いや感覚だけが残ってしまう。

だからこそ、その扁桃体に向けて、快い情報を送る事が大切になってきます。寝たきり度が高く、意思疎通がはかれない方であっても、この扁桃体によって快・不快を感じ取っている事を意識して、「やさしい目」で、「柔らかい空気感」で、「快い言葉掛け」を介護の『基本のき』として提供して参りましょう。

それでは、今月も、そして今日一日も、宜しくお願い致します。

## (2) 連絡事項【講話+① = 理事長】

① 介護の人員不足をフォローするための会議が5月末に行われました。看護職員と生活課が主なサポートに入りますが、その他の部署でも、何かちょっとしたことでも協力できる事がないか、光寿苑全体で考えて行けたらと思っております。